

会議等結果報告書			
会議区分	会議・打合せ・協議	文書番号	上富福祉第1023号
		決裁期日	令和5年9月15日
名称	第3回上富良野町地域福祉計画策定委員会		
日時	令和5年9月12日(火) 13時30分～15時30分		
場所	保健福祉総合センターかみん 多目的ホール		
出席者	(委員) 10名(別紙)、欠席委員4名 (役場) 深山課長、三好主幹、加藤主幹、用川主事、門木主事 (ぎょうせい) 木戸 様 ※オブザーバーとして社会福祉協議会 久保田事務局長が傍聴		
内容	<p>・会長あいさつ</p> <p>【議題】</p> <p>1 アンケート調査進捗状況について 資料に基づき、(株)ぎょうせいより説明。</p> <p>2 地域福祉団体アンケート調査の結果について 資料に基づき、(株)ぎょうせいより説明。</p> <p>3 地域福祉に関する課題やニーズのまとめについて 資料に基づき、(株)ぎょうせいより説明。</p> <p>■質疑・意見等</p> <p>委員～困ったときに、誰に相談しますかという質問では、経年比較で「民生委員・児童委員」と答える人の割合が低下している。コロナ禍の訪問活動ではじっくり話を聞くことができず、相談先として十分な信頼関係を築けなかったのではないかと考える。</p> <p>防災対策では、災害時避難行動要支援者名簿の更新や、これに基づく各住民会による個別支援計画の更新を行っているところがあるが、住民会で実態把握が難しく、いざというとき必要な行動ができないのではないかと危惧している。</p> <p>住民会が行うふれあいサロンについて、参加者が少なくやる意味がない、やめたほうがいいなど極論が出てきている。</p> <p>ボランティア活動、町内会役員や老人クラブへの60代の参加率が低く、参加できないという方も多い。今後、この年代の方々が増えてくるとますます住民活動が厳しくなるため、この年代に焦点を当てた取り組みが必要ではないか。</p> <p>事務局～毎年、高齢者支援班から防災担当へ要介護状態の方の名簿の提供など</p>		

を行っているが、亡くなった方が名簿に載っていることもあった。活用のできる「生きた名簿」の作成が求められる。ボランティア活動については、70歳を越えても働いている方も多く活動が難しい状況であると感じる。

委員 ～ぎょうせいさんへ質問であるが、調査結果の中で、60代の近所付き合いが少ない、困った時に助け合うコミュニティーが少ない、暮らしやすいと思う方が少ない、一方でボランティアの意欲は高いという現状が見えてきた。この点を踏まえ、気づいたことなどあるか。

ぎょうせい～定年退職を迎える60代で人間関係を一度リセットし、新しいコミュニティーにむけた模索をしていく意識の表れなのではないかと分析する。それが上手く繋がるように地域やボランティアがうまく繋いでいくことが肝要である。

事務局～調査結果より、60代に大きな動きがあることが分かった。どこの町でも同じなのかはわからないが、ボランティア活動や必要なサービス、地域に繋げていくことが必要であると考えている。

委員～将来的に定年が70歳になるとまた様々な問題が起こる。それを考えつつ計画していかなければならないと感じる。

事務局～全くその通りであると感じる。役場も段階的に定年の年齢が引き上げられている状況にあり、定年が延長されていくことを考慮しながら計画を策定していかなければならない。

4 意見交換（グループ討議）

【第1グループ】

- ・ 構成委員 田中委員、大場委員、村上委員、水島委員、西川委員、菊地委員
- ・ 事務局 加藤主幹(進行)、用川主事(記録)

■高齢者の地域コミュニティーへの参加について

- ・ 60歳以上の方が様々な活動等に参加することが少なくなっている。定年の延長や定年後に仕事を続ける方が増えていることが原因で、地域活動等に参加しなくなっている。
- ・ 老人クラブ連合会でも60代の参加が少ない。高齢化によりゲートボールができなくなり、パークゴルフやフロアカーリングも60代が参加しないため会員がどんどん減っている状態である。60代の参加してくれる方法や対策の検討が必要だと感じる。
- ・ 現在では70代や80代でも農家をやっていて現役の方もいる。コロナによって地域コミュニティーが壊れてしまい、集まることが減ってしまった。コロナの噂で集まりにくくなったのも現実にある。一度壊れたコミュニティーを復旧するのは現役世代では難しく、後期高齢者の世代が行わないと厳しいのでは。2030年が後期高齢者数のピークというが、このままの状態では地域崩壊が目に見え

ている。

- ・退職したタイミングでいろいろなところから呼びかけがあることが重要である。再雇用等が多くなっているが、現役で働くよりも余暇が増えるため、その時間を使えるのではないか。お助けサポーターも協力者の方は60代以上がほとんどである。年齢を重ねて自分の人生の振り返りができるような年齢になるため、参加することが生きがいの一つになるのではないか。そのための情報提供ができる体制づくりが必要である。
- ・定年退職後にすぐにボランティア活動等への参加は難しいと思う。常に参加の誘いをしてしまうと、参加すると忙しくなるのではと誤ってしまい、さらに参加してもらえなくなる可能性もある。参加登録すると時間が縛られてしまうから、難しくなるのでは。
- ・除雪サービスは、頼んでいる側からすると一秒でも早く来てほしいが、来ないから自分で除雪をしてしまい、自分でできるじゃないか等のトラブルが起きてしまう。待ちきれないのは高齢者の特性なのではないだろうか。
- ・コロナによって人と関わらなくなってしまい、この状態をリセットしてどのように復活するかというのは本当に難しいことである。これをすればよいという結論はないため、各団体が協力する必要がある。
- ・住民会の役員の後継者もおらず、現在後期高齢者の人間が担っており、地域コミュニティが崩壊している。組織の後継者になってくれる人が参加してくれない限り、高齢化が進み更に崩壊してしまうと考える。
- ・現在60代の人が70代になった時に考え方が変わらなければ、地域コミュニティは絶対に崩壊してしまう。60代で親の介護等を行っている人も増え、参加が更に難しくなる。簡単に少しずつ入り込めるような環境が必要で、参加した結果、楽しさややりがいを感じてくれる環境が重要である。

■認知症について

- ・閉じこもりが認知症のキーワードで、何か社会的な役割の有無が重要である。家から出ないという状態をなくすため、地域の集まりができる場所を確保する必要がある。ふまねっと等が地域にも根付いているということは、健康になりたいと考える人が増えているのではないか。
- ・福祉推進員を知っている人があまりにも少なく、活動を知らない人が大勢いることに衝撃を受けた。住民会の役員の高齢化も原因の一つで、どのような宣伝の方法がいいのか検討が必要となる。
- ・コロナによって3年以上休んでいて、その間に役員の入替わりがありノウハウがなくなってしまった。やらなかったことしか覚えていないという状態。
- ・過去は福祉係の人が対象年齢の自宅に回っていたのが、現在は回覧板だけになっており、知らない人が多い原因はそこではないか。
- ・福祉推進員も一年ごとに変更している人が多いため、やり方を理解できていないのではないか。昔は住民会の役員を長く担っている人が多くいた。
- ・住民会の活動報告の中に福祉推進員の活動が省かれていて、そこも認知されていない理由の一つであると感じる。

【第2グループ】

- ・ 構成委員 宮崎委員、水野委員、北村委員、広瀬委員
- ・ 事務局 深山課長、三好主幹(進行)、門木主事(記録)

■ヤングケアラーについて

- ・ ヤングケアラーは前回の計画ではあまり議題に挙がっていなかったが、本町でもヤングケアラーにあたる子どもが存在している。ヤングケアラーと家の手伝いの区別も難しい。
- ・ 両親が働いていると、どうしても上の子が下の子の面倒を見なければならない現状がある。
- ・ 家庭によっては、親が仕事に行ってから起床し、自分で支度をして学校に行く子どももいる。親が働いていたりして、祖父母の面倒を子どもが見なければならないこともある。
- ・ 子育て支援団体の活動の中で、訪問を行い、家の中のことを整えるということをしたことがある。家事などで時間が取れず、勉強がなかなかできない子どもの学習支援も行い、現在も継続している。
- ・ ライフワークバランスという観点で、親の介護やお子さん世話をしなければならない従業員の方が柔軟な勤務ができるようにと、職場の決まりを変えたことがある。
- ・ 行政だけではなく、一般の企業でも解決に向け柔軟な勤務体制等を築いていかなければならないと感じる。
- ・ 休みたいということを行うことができないと考えている親御さんも多く、そもそもその仕事、職場、地域を変えていかなければならないと感じる。次に繋げていくための支援が必要。
- ・ 町内の企業は中小企業が多く、柔軟な対応が難しい現状がある。また、地域全体が子育てに取り組んでいくことが必要であると考えている。
- ・ 昔は必要な人員プラスアルファで人員を確保していたが、今は人手が不足しており難しい。

■地域コミュニティの形成について

- ・ コロナ禍で3、4年行事等ができず、行事はなくても良いのではという風潮があり、今も行事の開催は少ない。
- ・ 子育てサークルとしては、動きが制限されている間に子どもが大きくなってしまったということがあるが、枝分かれしながらそれぞれの関係性を作っている。
- ・ 新聞が溜まっている家があるが大丈夫かという通報があったが、近所の方に聞いてもわからない。後日、コンサートで家を数日空けていたということがあった。地域の力で地域ぐるみの関係性を作っていくことが必要である。

■災害時要支援者について

- ・ 災害時要支援者名簿について、要支援者であることを言いたくない理由として、病気を隠したい、迷惑をかけたくない、自分は自分でなんとかできると考えている方もいる。

- ・要支援者であることを言いたくない理由として、隣近所の関係が希薄であるということも影響しているのではないかと考える。

■自殺対策について

- ・年代別に見ると、死にたいと思うことが「よくあった」、「たまにあった」と答えた割合は10代、20代で高くなっており、本当に苦しいと感じた。困ったことがあった際には、家族や友人などの身近な方に相談するという回答が多く、死にたいと思う前の段階で、身近な方に相談する可能性が高い。相談を受ける可能性のある方に対する、スキルアップの研修、コミュニティーも大切なのではないか。

■その他

- ・今まで障害者の方はあまり外に出ないイメージがあったが、今は事業所に行って活動して帰ってくるということができていると感じる。

5 その他

次回開催は11月に予定。

- ・会長あいさつ

(閉会時刻 15:30)

上富良野町地域福祉計画策定委員会委嘱者名簿

所属団体・機関等の名称及び役職	氏 名	出 欠
上富良野町身体障害者福祉協会 会長	佐 藤 輝 雄	欠 席
手をつなぐ親の会 会長	佐 藤 祥 一	欠 席
つばさ会 顧問	宮 崎 守	
上富良野町社会福祉協議会 会長	田 中 利 幸	
社会福祉法人わかば会 理事長 (ケアハウスかみふらの 施設長)	谷 口 靖	欠 席
社会福祉法人富良野あさひ郷 (デイサポートかみふらの 所長)	水 野 雄 二	
ボランティアセンター運営委員会 委員長	村 上 孝 子	
上富良野町女性団体連絡協議会 書記	西 川 美智代	
上富良野町老人クラブ連合会 会長	水 島 雅 夫	
かみふ子育てネット「くるくる」	北 村 真貴子	
上富良野町民生児童委員協議会 会長	大 場 富 蔵	
上富良野町商工会青年部 部長	木 津 雅 貴	欠 席
上富良野町住民会長連合会 会長	菊 地 昭 男	
一般公募	広 瀬 美 奈	